

## 鷺沼小学校で 「Get The Point」が行われ、 子どもたちもゲームを楽しみ SDGsを考えました

坂本智子（国際交流部会）

習志野市国際交流協会は、SDGsの理念の下、差別や不平等をなくし、多文化共生の地域づくりを推進していくことを活動目標に掲げていますが、その一環として、国際交流部会はSDGs学習ゲーム「Get The Point」を活用して、SDGsの理解と普及に取り組んでいます。

2月2日(木)と3日(金)の2日間、国際交流部会は鷺沼小学校4年1組～4組で2コマの授業時間をいただき、「Get The Point」のワークショップを行いました。進行はゲームの認定ファシリテーターである広報部会の関根洋幸さんが務めました。

このゲームは資源（再生できるものとできないもの）カードを使って、その資源で作られるアイテムのポイント数を競う、4人1組で行なうゲームです。1ゲーム目は個人戦です。資源カードがなくなるまで行い、点数が高かった人が勝ちになります。2ゲーム目はチーム戦。課題カード「クライシス(危機)とサステナブル(お助け)」が加わり、



ゲームは4人で協力して進めます

資源カードがなくならないよう10周行い、11周目ができる状態で終了します。チームメンバーが平等にアイテムをゲットし、かつ、

高得点を目指すので、話し合いと協力が求められます。1ゲーム目では得点を取ることに集中していた子どもたちが、2ゲーム目ではチームメンバーのアイテムを確認しながら、協力と工夫によって取り組んでいました。課題カードを引くと大きな歓声やどよめきが起こり、ワークショップは大いに盛り上がりました。

ゲームの後には、家のために働かなければならず、学校に行きたくても行けない、満足に食事を取れない同年代のボリビアの子どもたちの事例をスライドで紹介し、自分たちの環境と大いに違う世界の子ども達の状況も知ってもらいました。進行役から、「もし1ゲーム目のような



SDGsについて考えた発言もありました

資源を使い果たしてしまった世界になったらどうなるか?」「そのような世界の現状を救うためにSDGsがあり、未来を変えるためにみんなはどんなことができるか?」と問いかげられ、子どもたちは自分たちにできる行動は何かを考えました。

来年創立150周年を迎える鷺沼小学校は、SDGsの啓蒙活動に積極的に取り組んでいて、校内には17の目標が所々に掲示され、6年生になると子供たちデザインのSDGsののぼり旗を作成しているそうです。

今回のワークショップが子どもたちのSDGsの学びと、さらには習志野市のパートナーである姉妹都市タスカルーサとのつながりを考えるきっかけになれば嬉しく思います。

## タスカルーサ市 桜まつりの 「うちわ」ができました

3月25日にタスカルーサ市のリバーマーケットにおいて、桜まつりが開催されました。桜まつりで配られるうちわに描かれた今年のテーマは「未来をひらく」・「Renew」で、タスカルーサ国際姉妹都市協会から千葉県出身の書道家に書をお願いし、習志野市の印刷業者がデザインと印刷を行いました。完成したうちわは海を越えてタスカルーサ市へ送られ、日本文化とともにタスカルーサ市の春を祝う祭典を彩りました。（報告 協働政策課）



オモテ面



ウラ面

# 外国人の皆さんは何に困り、何を望んでいるのでしょうか？

～習志野市外国人市民意識調査に協力しました～

昨年7月習志野市は、今後の多文化共生の実現に向けた事業の基礎資料とすることを目的として、習志野市国際交流協会の15歳以上の外国人会員を対象に行政に対する要望や意識のアンケート調査を行いました。調査に当たって、まだ日本語が良くわからない日本語教室の学習者に対しては、日本語ボランティアの皆さんがていねいに説明し、聞き取りを行いました。調査は90票を配布、43票を回収、回収率47.8%でした。以下、調査結果の一部を紹介します。

\*

「わかる言葉、つかえる言葉は何ですか」という設問では74.4%の回答者が「日本語がわかる、つかえる」と回答しました。しかし、「生活で困っていることはありますか」という設問には、41.5%の回答者が日本語に困っていると回答しました。これを見ると日本語教室の存在は貴重だと思われま

す。また「習志野市にしてほしいことはありますか」では「日本語や日本文化を学ぶ機会を増やす」、「市役所窓口での通訳対応」、「生活で必要な情報をやさしい日本語にする」等が上位を占めました。日本に長く居住している外国人からは、「外国人と日本人の交流を増やす」、「図書館に外国語で書かれた本を増やす」等が挙げられました。「してほしいこと」は「困っていること」に対応して「日本語や日本文化を学ぶ機会がほしい」がトップでした。全体的に言葉に関する設問が多いということもありますが、外国人にとって何をやるにしても言葉の問題は大きな壁となっていることがわかります。

\*

今回の調査は、回答数が多くはなく、外国人の一部の意見ではありますが、一定の現状と困りごとの把握ができたと思われま

(報告：広報部会・伊東稔雄)

以上の「習志野市外国人市民意識調査結果報告書」は市のホームページからご覧になれます。

以下のアドレスからアクセスしてください。

[https://www.city.narashino.lg.jp/soshiki/kyodoseisaku/gaikokujin\\_chosa.html](https://www.city.narashino.lg.jp/soshiki/kyodoseisaku/gaikokujin_chosa.html)



NIA日本語教室2023年3月

## 事務局を訪問して、クルーの皆さんの日常を伺いました

秋山 勝 (広報部会)

NIAの活動をささえている事務局は普段どんな様子なのでしょうか。仕事やスタッフのプロフィールを紹介します。

事務局は、事務局長の井澤修美さん、事務局員の大場みな子さん、仙田希代子さんの3人体制。それぞれ週4日勤務で、3人揃うのは週1日だけ、あとは2人のシフトです。

仕事は「主にボランティアの皆さんのサポート」です。「ボランティア間、またボランティアと市や外部団体との調整」は中でも難しい業務です。ボランティアの意欲と周囲の事情との両立はなかなかたいへんのです。「外国からの珍しいおみやげをいただくのは嬉しいし、いろいろな国で考え方や習慣が違うことを知るのも面白いです」とも。国際交流協会ならではの楽しみですね。

ここでのキャリアは、井澤さんは5年、大場さんは10年、仙田さんは9年です。

今回チームワークしっかりと、ていねいに質問に答えていただいたように、これからも訪問者を笑顔で温かく迎えてくれると思います。



左から、井澤事務局長、事務局員の大場さん、仙田さん

# 図書館に行こう！ 中央図書館の外国語図書利用の すすめ

伊東稔雄（広報部会）

習志野市が令和4年12月に公表した外国人市民意識調査の報告によると、「図書館に外国語で書かれた本を増やしてほしい」という要望が多いということがわかりました。そこで、外国語で書かれた書籍の蔵書状況や利用状況を伺いに、習志野市立中央図書館を訪問、館長の岡野重吾さんと多文化サービスコーナー担当の肥留間美穂さんにお話を伺いました。

\*

Q1 外国語図書の所蔵状況と利用状況は？

A1 所蔵数は、令和5年1月末現在で2,495冊、借りられた冊数は令和3年度2,668冊、4年4月から5年1月までで2,407冊です。一般書と児童書の割合はほぼ同数ですが、借りていく方の多くは日本人ですね。

Q2 外国語の書籍コーナー（多文化サービスコーナー）をつくった目的やコンセプトは？

A2 令和元年11月に中央図書館としてオープンしました。その際、「誰でも利用できる図書館」をコンセプトに、日本語が得意ではない外国の方々にも本を読んでもらえる環境を提供したいと思い設置しました。在住外国人の方が母国語で書かれた本を目にすることは心安まることだと思います。外国語図書を収集しているのは市内でも中央図書館ですが、4階閲覧室の新书推荐図書や月々の特集展示コーナーの隣の目立つ場所に設置しています。

Q3 現在抱える課題は？

A3 まず資料が少ないことです。書籍の量自体も少ないですが、外国の文化を日本人に紹介できるような資料も少ないと思っています。また、図書館を利用するためには「図書館カード」を作る必要がありますが、外国人の方にはハードルが高いですね。カード発行の時だけでも誰か日本人か日本語がわかる人が付き添ってくれると助かります。また、この



外国語書籍の書架



岡野館長(左)と担当の肥留間さん(右)

図書館の存在をもっとPRしていく必要があります。そういう意味でも今回NIAのスクウェアに取り上げてもらえてうれしいです。

Q4 今後の展望は？

A4 中央図書館になってから英語以外の言語の図書も収集するようになり、昨年もベトナム語の図書を10冊以上購入しました。利用者や貸し出し冊数を増やしていきたいです。

Q5 国際交流協会及び会員へ伝えたいことは？

A5 図書館の多文化サービスはまだ始まったばかりです。やりたいことはたくさんありますが、図書館だけではできないことも多いのです。ぜひ国際交流協会の皆様のご協力をお願いします。

岡野さん肥留間さんからは、「国際交流協会として図書館に団体登録してもらえると、50冊を一度に貸し出すことができるので、国際交流協会で外国語図書を展示できないだろうか」とか「連携事業として図書館で読み聞かせを行えないか」等の具体的な提案をいただきました。



一般書(大人向け)の表示



児童書(子ども向け)の表示

世界の料理教室が開かれました

## 本場のシェフにオーストラリア料理を習いました

佐藤洋子（広報部会）



3月7日、菊田公民館で「世界の料理教室」（文化交流部会主催）が開かれました。今回はオーストラリア料理。講師はオーストラリア人のリアック・マシュー・ハワードさん。現在、英語や日本語による『料理の出前教室』を主宰しています。プロのシェフとして、オーストラリア

アやヨーロッパの、シェラトンなどの五つ星ホテルや人気ビストロで、15年間腕を振るってきました。奥さまは日本人で、3児のパパです。

シェフに教わるというちょっと緊張してしまいましたが、「マシューは言いにくいからマットと呼んでくださいネ」と流暢な日本語で話す明るいシェフに、クラスはたちまち打ち解けた雰囲気。

メニューは3品。メインは『オーストラリアのフィッシュ&チップス』です。白身魚のフライに棒状のポテトフライ。フィッシュ&チップスといえばイギリスが有名ですが、昔英領だった関係から「オーストラリアでも広く人々に愛されています。元々のイギリスの味にオース

トラリアの風味を加え、まさにオーストラリアのソウルフードになっています」とマットさん。たとえば衣の材料にビールをドバーっと景気よく入れる。ビックリですが、これがオーストラリア風だそう。「味もよくなるし、サクサクした食感になる」といいます。

魚の切り身に衣をついたら、指先でつまんで油の鍋に切り身を垂直に少し入れ、指で持ったまま「前、後ろ、前、後ろと振ってから静かに入れます。なぜならば、横向きにいっぱいに入れると、ベチャッとした仕上がりになるからです」。実技を見せながら、「なぜならば」と要所所で理由やコツを伝授。「なるほどー」「勉強になるわー」と16名の参加者たちもシェフの技や知識にすっかり感心の様子です。



講師のマットさん



フィッシュ&チップス(中央左)、プラウマンズ・プラッター(中央右)、チョコレートラミントン(手前右)

2品目は「農家さんのランチ」という『プラウマンズ・プラッター』。チーズ、リンゴ、キュウリ、ハムなど、素材はシンプルですが、シェフの切り方や盛りつけの技に感心感動。3品目はリッチな味のデザート『チョコレートラミントン』でした。

揚げたてのサクサクのフィッシュ、パリパリのチップスに舌鼓。盛りだくさんのランチに大満足の日でした。

**\*次回は6月開催予定、詳細はHPまたは事務局にお問い合わせください。**

詳しい記事はホームページをご覧ください

<発行>

習志野市国際交流協会  
千葉県習志野市津田沼5-12-12  
サンロード津田沼6F  
〒275-0016  
Tel&Fax 047-452-2650  
<http://www.nia08.com/>  
[nia@jcom.zaq.ne.jp](mailto:nia@jcom.zaq.ne.jp)

<広報から>

- ▶ メールマガジンに読者登録をスクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレス [niasquare@jcom.zaq.ne.jp](mailto:niasquare@jcom.zaq.ne.jp) まで。
- ▶ 原稿をお寄せください  
イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局または [niasquare@jcom.zaq.ne.jp](mailto:niasquare@jcom.zaq.ne.jp) へ。
- ▶ スクウェア編集部員を募集しています  
一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。